

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

「ゆっくりすべり」について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2024 年 11 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>

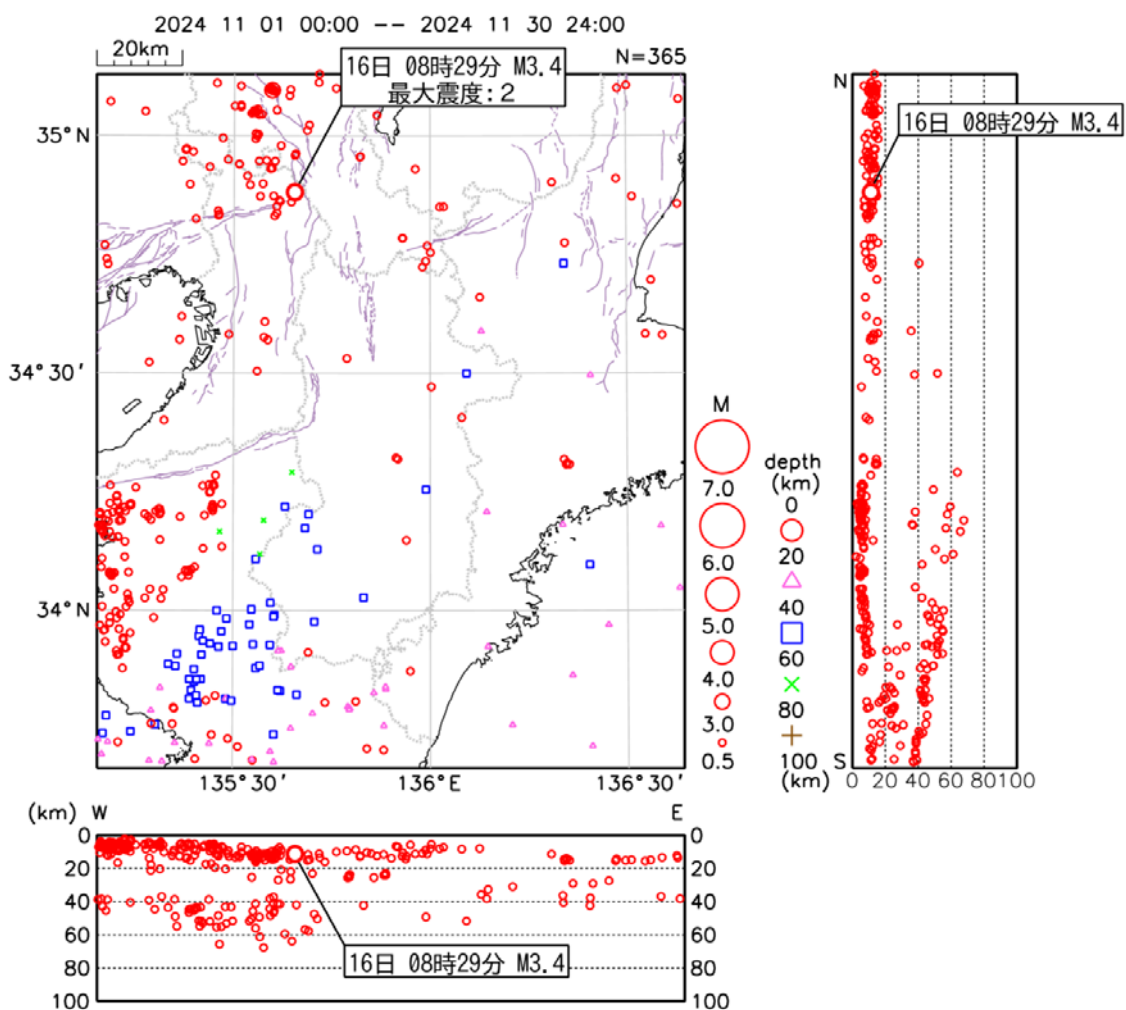


【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度1以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模などを記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

16 日 08 時 29 分 大阪府北部の地震（最大震度 2、深さ 11km、M3.4）により、奈良県内では奈良市、大和郡山市、生駒市、川西町で震度 1 を観測しました。

26 日 22 時 47 分 石川県西方沖の地震（最大震度 5 弱、深さ 7 km、M6.6：震央分布図範囲外）により、奈良県内では奈良市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、香芝市、川西町、三宅町、田原本町、広陵町、葛城市で震度 2 を観測した他、16 の市町村で震度 1 を観測しました。

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2024 年 11 月 16 日 08 時 29 分	大阪府北部	34° 52.9' N	135° 39.3' E	11km	M3.4
震度 1：奈良市二条大路南＊、大和郡山市北郡山町＊、生駒市東新町＊、奈良川西町結崎＊					
2024 年 11 月 26 日 22 時 47 分	石川県西方沖	37° 00.5' N	136° 23.8' E	7km	M6.6
2024 年 11 月 26 日 22 時 48 分	石川県西方沖	37° 00.3' N	136° 25.8' E	3km	M5.0
震度 2：奈良市西紀寺町、奈良市二条大路南＊、大和郡山市北郡山町＊、天理市川原城町＊、橿原市八木町＊、桜井市栗殿＊、香芝市本町＊、奈良川西町結崎＊、三宅町伴堂＊、田原本町役場＊、広陵町南郷＊、葛城市柿本＊					
震度 1：奈良市月ヶ瀬尾山＊、奈良市都祁白石町＊、大和高田市野口＊、大和高田市大中＊、桜井市初瀬、五條市岡口＊、御所市役所＊、生駒市東新町＊、山添村大西＊、平群町吉新＊、三郷町勢野西＊、斑鳩町法隆寺西＊、安堵町東安堵＊、高取町観覚寺＊、明日香村橘＊、上牧町上牧＊、王寺町王寺＊、河合町池部＊、大淀町桧垣本、宇陀市榛原下井足＊、宇陀市室生大野＊、宇陀市大宇陀迫間＊					

注）複数の地震がほぼ同時刻に発生し、震度の分離ができないため震源を複数記載しています
＊印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布】

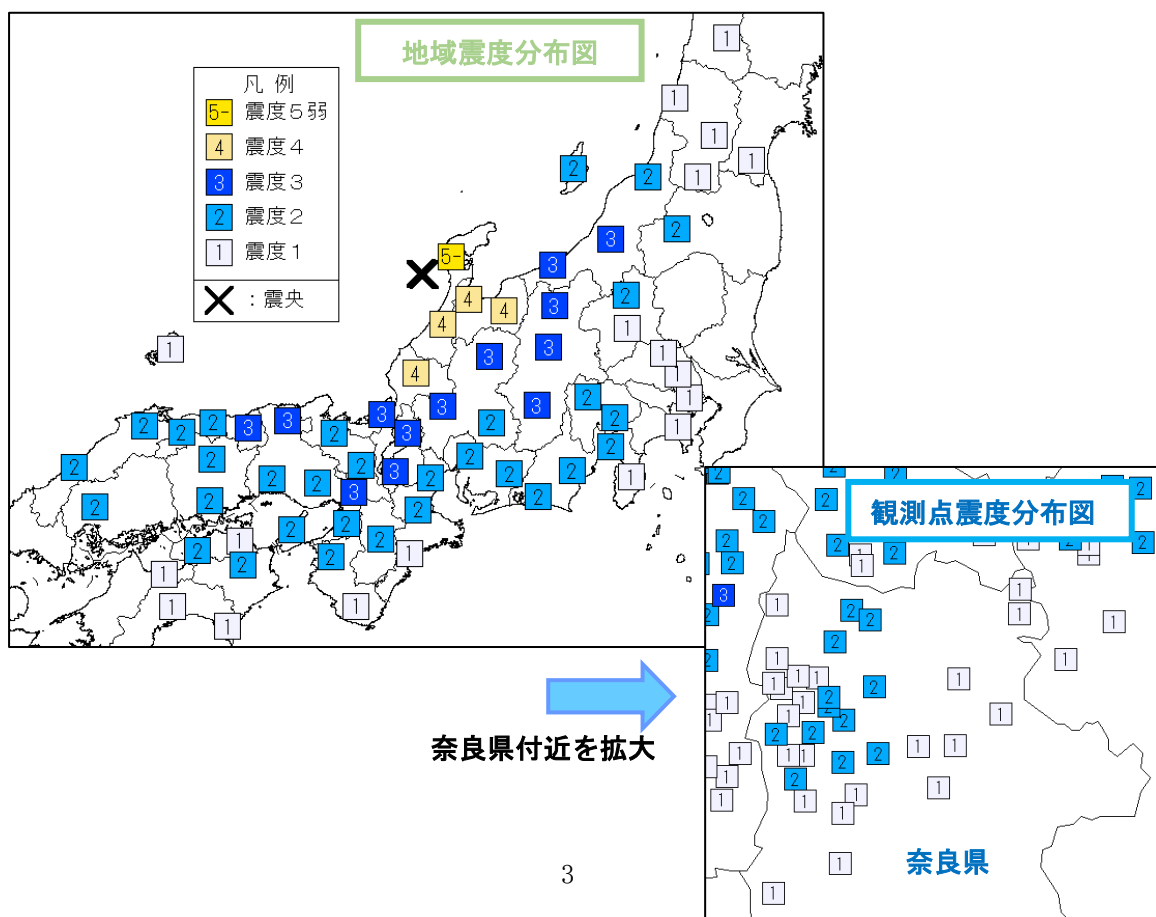
2024 年 11 月 16 日 08 時 29 分 大阪府北部 34° 52.9' N 135° 39.3' E 11km M3.4



2024 年 11 月 26 日 22 時 47 分 石川県西方沖 37° 00.5' N 136° 23.8' E 7km M6.6

2024 年 11 月 26 日 22 時 48 分 石川県西方沖 37° 00.3' N 136° 25.8' E 3km M5.0

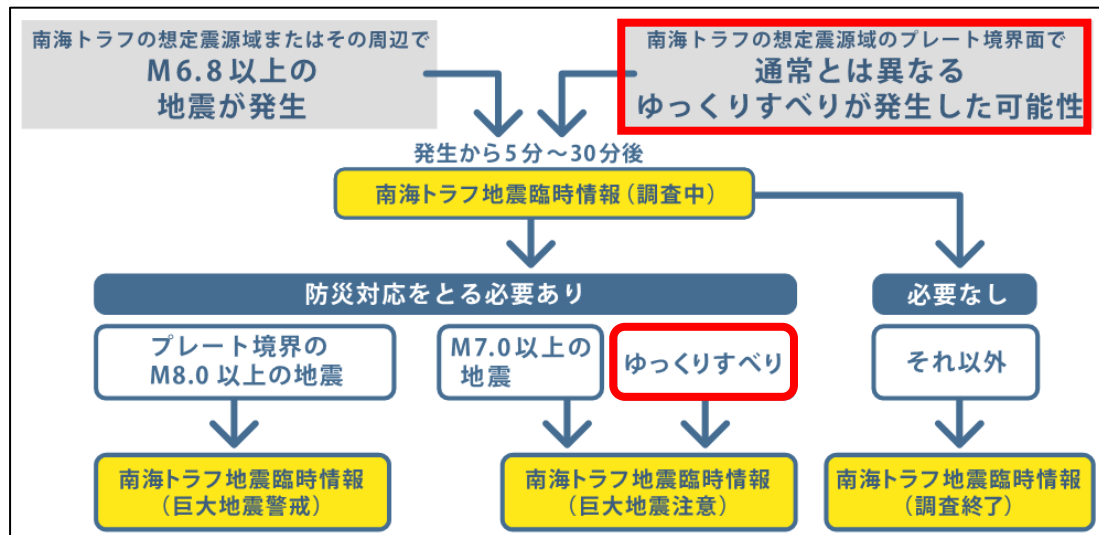
注) 複数の地震がほぼ同時刻に発生し、震度の分離ができないため震源を複数記載しています



【地震一口メモ】

～「ゆっくりすべり」について～

気象庁が南海トラフ地震臨時情報を発表する条件の一つに「南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべりが発生した可能性」がありますが、「ゆっくりすべり」自体、聞き慣れない言葉だと思います。

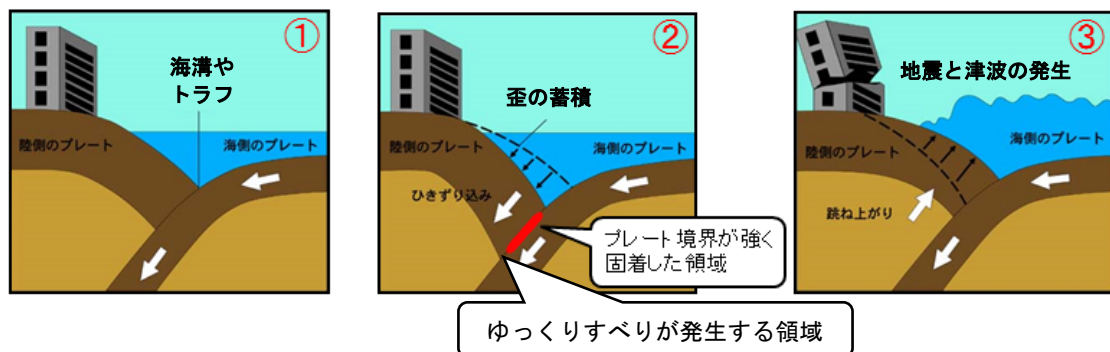


気象庁リーフレット「南海トラフ地震 ―その時の備え―」から抜粋（一部修正）

南海トラフなどの陸側のプレートと海側のプレートの境界には、強くくっついている（固着という）領域があり、この領域が急激にすべることで巨大地震が発生します。

ゆっくりすべりは、固着領域より深い場所（深さ約 30-40km）が数日～1週間程度、短期的にゆっくりとすべる現象です。地震のように揺れを感じることはありませんが、従来から繰り返し観測されていて、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

ゆっくりすべりが、従来から観測されているものとは異なる場所で観測された場合や、同じような場所であっても変化の速さや規模が大きいなど従来から観測されているものと異なるものが観測された場合には、プレートの固着状況に変化があった可能性が考えられることから、南海トラフ地震との関連性について調査を開始します。



南海トラフ地震の発生のメカニズム

気象庁は、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべりが発生したと評価された場合、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表します。この発表を受けて、政府は、すべりの変化が収まってから変化していた期間と概ね同程度の期間、防災対応の呼びかけを行います。これを見聞きしたら、地震の発生に注意しながら日常生活を行いつつ日頃からの地震への備えを再確認する等、政府や自治体からの呼びかけに応じた防災対応をとってください。

地震発生から 最短2時間後	南海トラフ地震 臨時情報 (巨大地震警戒)	南海トラフ地震 臨時情報 (巨大地震注意)	南海トラフ地震 臨時情報 (調査終了)
(最短) 2時間程度	巨大地震警戒対応 ●日頃からの地震への備えを再確認する等 ●地震発生後の避難では間に合わない可能性のある要配慮者は避難、それ以外の者は、避難の準備を整え、個々の状況等に応じて自主的に避難 ●地震発生後の避難で明らかに避難が完了できない地域の住民は避難 	巨大地震注意対応 ●日頃からの地震への備えを再確認する等（必要に応じて避難を自主的に実施）※2  つねに家族の所在場所を把握  非常用袋やヘルメットを玄関に  寝る時は枕元にはきなれた靴を置いておく	●大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う   
1週間			
2週間	巨大地震注意対応 ●日頃からの地震への備えを再確認する等（必要に応じて避難を自主的に実施）	●大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う  	
大規模地震発生まで	●大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う		

「南海トラフ地震 その日が来たら…」から抜粋（一部修正）

※2 通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合は、すべりの変化が収まってから変化していた期間と概ね同程度の期間が経過した時。